

『胆管結石&胆嚢摘出 手術と入院 見聞録 2018.12』

私、池田は、今まで海外旅行記については何度か『見聞録』を著してきた。今回は、「胆管結石」と「胆嚢摘出」という貴重な経験をしたので、そのことについても『見聞録』を著すことにした。

目次

《第1部》	1 回目の入院 (胆管結石)	10
	[1] 11月29日~12月5日の入院	
	[2] 12月6日~12月11日の在宅生活	
《第2部》	2 回目の入院 (胆嚢摘出とステント取出し)	15
	[1] 12月12日~12月22日の入院	
	[2] 12月22日~1月7日の 退院後の在宅生活	

[注記]以下の本文中の写真と画像は、ほとんどがネットから取った。

《第1部》 1 回目の入院 (胆管結石)

[1] 2018年11月29日~12月5日の入院

11月26日(月) 腹痛おこる

☆今までの腹痛とAクリニックの診断

11月26日の夕食後少ししてお腹が痛くなった。腹部の膨満感と胃を押されるような強い痛みで、これはいつもの胃痛だと思った。

<今までも同様の腹部の強い痛みは度々あった。>

①昨年6月のタイ旅行の直前にも同じようなことが起こり夜も全く眠れず、翌朝医院(Aクリニック)に行くと、心電図結果に異常はないので、「胃潰瘍」だろうと言われて、「胃酸を押さえる薬」を貰って服用したところ数時間して痛みがおさまった。②その後昨年12月の沖縄旅行の直前にも同じような夜も全く眠れない痛みが起こり、その時もAクリニックで「胃潰瘍」と診断された。この時は朝、クリニック

に行く直前に痛みはおさまっていた。③さらに今年の6月にもこの時は2度目のタイ旅行の後に同じような痛みが起こった。このあとは「胃酸を抑える薬」を毎朝1錠ずつ毎日飲むこととなった。④今年の9月の腹部の同様の痛みの時は37度ちょっとの熱があったので、「感染性胃腸炎」と診断された。しかし、「感染性胃腸炎」に特有の吐き気と下痢は無かった。⑤10月の痛みの時には、Aクリニックで痛みが起こったら飲むように「痛み止め(胃の働きを抑える薬)」を貰って飲むとこれが効いたように思った。⑥11月の中頃の痛みの時も痛み止めに飲んで効いたように思った。

☆11月26日の腹痛は⑦回目の腹痛

⑦今回11月26日(月)の痛みもAクリニックで貰っていた痛み止め(胃の働きを抑える薬)を飲んだが、今度はすぐには痛みはおさまらなかった。しかしその後4時間くらい時間を空けて痛み止めに再度飲んだら、2回目で効いたようで朝方は眠れた。

朝になると痛みはすっかりおさまっていたので、この日は特に医者には行かないで過ごした。

翌日11月27日(火)も特に問題は無かった。

11月28日(水) 再度腹痛おこる

☆昼頃からまた腹痛起こる(⑧回目の腹痛)

この日は午前10時に前年の安曇野市朗人大学の同じ班の仲間とマレットゴルフでの親睦会があった。マレットゴルフは楽しくやったのだが、昼食を一緒にとる段になって、胃が少し重くなって来たので、あまり食べられなかった。2時頃帰宅しても痛みは引かなくてむしろ重くなって来たので、また「痛み止め(胃の働きを抑える薬)」を飲んだ。それでも今回も痛みはおさまらないので、6時、10時、夜中の3時と薬を飲み続けた。痛みはひどくなり、じっとしていられない程痛くなって、ずっとうなっていた。そのまま腹痛に苦しんで一睡もできず朝7時ころ迎えた。ところがその後明け方1時間くらい眠りについたようで、気がつくと8時だった。

11月29日(木) 診察。即日手術に驚く

☆朝、妻のアドバイスでBクリニックに行く

朝起きるととりあえず腹痛はおさまっていたが、朝は何も食べず、9時ころ、いつものAクリニックではなく、今回はBクリニックに行った。というのは前日に「妻のアドバイス」があったからだ。

【妻のアドバイス】

妻が言うには、何度も「腹痛」があり「胃痛」と思っているようだが、本当に「胃潰瘍」で胃が痛いのかどうか疑わしい。Aクリニックには検査機器がないので、今回は、検査機器があるBクリニックに行く方がいい。妻の感では胃痛ではなく、人間ドックの時にBクリニックで見つかった「胆石」の影響ではないかとのことだった。私はそれまでAクリニックの言うがままに「胃潰瘍」だと思い込んでいたので考えても見なかったが、妻の言うこともあり得ると「目から鱗が落ちる」ようであった。

Bクリニックでは、まず胃カメラで検査をした。先生は「胃カメラで見たところ、胃潰瘍はないし、これは胃が原因の痛みではないね」ということだった。さらにお腹の超音波検査をして、今年3月にもここでの人間ドック検査で指摘されたが、胆嚢に5mmほどの石が幾つかある。胆嚢から胆管に石がこぼれているかどうかは見えないが、それだけの激痛は「胆管結石」の疑いがあるから総合病院でCTをとって貰えば、「胆管結石」かどうかははっきりするとのことであった。

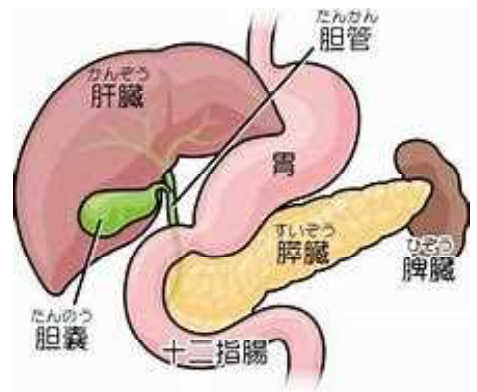
そこでBクリニックからC総合病院への紹介状を貰ってC総合病院に向かった。

☆紹介状を持ってC総合病院に行く

C総合病院に到着したのは11時ころだった。C総合病院では、まず「消化器内科」に通され、私が今回の腹痛とこの間の腹痛の経緯とBクリニックでの検査と診断についてひととおり医師に話した。それで医師の判断で、腹部の超音波検査やCTスキャンの検査などいくつかの検査をすることになった。

各種の検査の後で再び「消化器内科」の診察を受けた。医師の話では、胆嚢に「結石」が幾つか見られる。「黄疸」もみられる。胆管にははっきりした石は見られないが、胆管下部の十二指腸への出口付近に小さな石らしい影が見える。これは恐らく「胆管結石」だろうから、すぐに石を取り出す(掻き出す)手術をした方がいいということだった。私としては突然の手術という事態に驚いたが、これから急遽手術をして、その後入院ということをお願いされてしまった。

「胆管結石を取り出す手術」の仕方としては、まず口から胃カメラを入れる。それを胃を通り越して十二指腸まで入れる。十二指腸に胆管とつながる穴があるから、そこから胆管側に胃カメラの先の鉗子を入れて、鉗子で小さな胆石を十二指腸側に掻き出すようにする。十二指腸に入った石はそのまま小腸・大腸と運ばれて肛門から出る。それで当面、今胆管下部に残っている石で激痛に襲われることはなくなる。その次に、今後、別の胆石が胆管を通る時に胆管を刺激して痛みが発生しないようにステントというストロー状の物を入れて胆管の内壁を守るようにする。ただし、ステントは入れてから2週間程度で今度は抜き去る手術が必要になる。ステントを抜く手術は、入れた時と同様に胃カメラで対応する。今回の手術は局所麻酔で眠り薬を入れるので患者本人はほとんど眠ってしまって痛みは感じない。そういう説明だった。



その後、妻に電話して医師からの言われたことをかいつまんで話し、妻に急きよ、病院に来て貰って手術と入院の手続きをして貰った。妻はあまりに急なことに驚いていたが、しかし、「胆管結石」だろうと予想していたので、想定内だったらしい。すごいものだ。

【胆石（胆管結石）とは】

＜ネット情報＞から

ヒトにおけるコレステロールの排泄は肝臓から胆汁として分泌されるが、その際にコレステロールの一部から肝臓で生合成される胆汁酸と複合体を形成して排泄される。胆汁の中のコレステロールは胆汁酸により分散安定化されているが、胆嚢で胆汁が濃縮される際に何らかの原因で遊離しコレステロールの結晶が成長すると、胆嚢あるいは胆管において「コレステロール胆石症」の原因となる場合もある。胆石の他の原因であるレンチンやビリルビンによる結石は稀である。

【胆石症（総胆管結石症）】

胆石は胆嚢や胆管内にできた結晶で、胆嚢にあるときは「胆嚢結石症」、胆管にあるときは「総胆管結石症」、肝臓内の胆管にあるときは「肝内結石症」という。我が国では「胆嚢結石」が最も多く約80%を占める。ほとんどの胆石は胆嚢にでき、その後胆管に流れ出る。この胆石により胆管が塞がれてしまうと、胆管や肝臓に細菌感染を起こしたり、膵炎や黄疸（おうだん）の危険性が出て来る。

＜結石の原因＞

胆汁中に溶けているコレステロール（これがほとんど）、ビリルビンなどの物質が様々な原因（胆汁中に過剰に排泄、胆道感染など）により胆汁中に溶けきれなくなり、結晶になる。

＜総胆管結石症の症状＞

胆石が胆嚢の中にあるときは何の症状も出ない。胆管に移動し小さいまま残っているか、無事小腸に流れ出たときも無症状。しかし、胆石が胆管を塞ぐと痙痛（引いては繰り返す激痛）が起こる。（池田もこれが度々起こった。とにかく痛い）食後30分から2時間くらいで、右上腹部の痛みと時により吐き気、嘔吐が起こる。胆石特有なものは、右上腹部を圧迫したときの痛み。胆管がふさがり、感染がおこると、発熱・悪寒・黄疸が出る（私も今回は黄疸が出ていた）。

【黄疸】

＜黄疸とは＞

黄疸とは血液中のビリルビン濃度が上昇し、結果的に全身の皮膚や粘膜に過剰に沈着した状態のこと。（ビリルビンは、古くなった赤血球を破壊する時にできる「黄色い色素」のことで、血液から肝臓に運ばれて胆汁の成分になります。その後は十二指腸や小腸を循環して、最終的に尿や便として排出される。便の色の黄色の色素はビリルビンが原因）

＜黄疸の症状＞

ビリルビン濃度が上昇すると、①眼球の白目の部分や皮膚が黄色くなる。②尿の色が濃い黄色に変化したり、③便の色が灰色っぽくなることもある（便の色の黄色の色素はビリルビンが原因）。他には、④全身倦怠感、⑤食欲不振も起こる。⑥ビリルビンが皮膚に溜まると痒みを伴う。

＜黄疸の原因＞

黄疸は、本来であれば代謝されるべきビリルビンが多く生産されすぎたか、うまく排泄しきれない時に起こる。黄疸の発生原因は以下の5つ ①溶血性、②肝細胞性、③肝内胆汁うっ滞性、④胆道閉塞、⑤体質性。私の場合は、④の胆管結石による胆道閉塞によって黄疸が起こっていたものと思われる。

＜黄疸の治療＞

大人の場合、黄疸は重大な病気のサインである可能性が考えられるため、できるだけ早く原因となっている病気を特定し、原因となる病気を治療する必要がある。私の場合は胆管結石で胆道が詰まったことが度々あったため、激痛の回避のためだけでなく、この状態を早く治療する必要があった。

☆C総合病院で緊急手術(胆管結石)

手術のために車椅子に乗せられて通された部屋は、手術室というより胃カメラの検査室であった。そこ

で横向きに寝かされ、口に器具をはめられた。それから局所麻酔と眠り薬の投与がされた。覚えているのはそこまで、そのあと私はぐっすり眠ってしまったらしく、気がついたら手術は終わっていた。時間は1時間前後であったようだ。病院にとっては、これは「手術」と言うほどでも無く、検査の延長で問題があったら検査の中で処理するという程度のことらしい。

手術終了後、妻が医師から手術の結果を詳しく説明されたようで、そのことを後でいろいろ話してくれた。 5

11月29日(木)～12月5日(水) C総合病院に7日間入院

☆29日にC総合病院にそのまま入院

手術が終わったので、そのまま病室に案内された。病棟は5階のE(東)病棟。こちらは内科の病棟で同じ5階のS(南)病棟は外科の病棟。病室は、手術直後は看護師さんたちの詰め所のスタッフステーションの真ん前の二人部屋だった。手術直後の患者はその病室が指定場所ようだ。

夕方、妻の妹(義妹)とその娘(姪っ子)が来室。私が自分の車で病院に来て駐車場にその車を置いていたので、それを我が家まで持ち帰るために二人で来てくれたのだ。入院するといろいろな人に迷惑をかける。本当に申し訳ない。もちろん妻にも、二人にも。 15

二人部屋の同室のTさんはおしゃべりが好きな人ですぐに知り合いになった。彼女は70代くらいの人で、私が「胆管結石」だというのが聞こえたようで、石は痛いよねえと、自分の胆管結石と尿管結石の時の話を始めた。あれは経験者で無いと分からない痛みなのよねえという言葉に同感。しかし今回の入院はそれでは無く、「脊椎圧迫骨折」とのこと。彼女は農家の人で、高齢の夫と畑仕事をしていた時に、夫が何かに躓いたようで突然倒れたので夫を起こそうとした時に痛みが走った。しかし夫はそれっきり意識がなくなったので、自分の痛みを訴えているどころではなく、何とか救急に連絡できて夫はドクターヘリで松本の信大病院まで運ばれた。けれども亡くなってしまった。心筋梗塞だったらしい。その後夫の通夜と葬儀があったが、自分は背骨と腰の痛みがひどくて寝たきりになって、葬儀にも出られなかった。そして今日ここに運び込まれたと言っていた。ひどい目にあったと言っていた。本当にそうだ。 20 25

【石(結石)の痛み】

Tさんの話にも出てきたが、「胆管結石」も痛い「尿管結石」もひどく痛い。 30

私は42歳の男の厄年の年に「尿管結石」で苦しんだことがある。朝食を普通に食べて車で出勤したところ、5分ほど運転した所で腰の後ろの方が突然突き上げるように痛くなって、これ以上運転ができない状態になった。そこで何とか痛みを耐えながら家まで引き返した。激しい痛みで脂汗が出てきた。急に吐き気してトイレに駆け込んで吐いた。痛みがひどく転げ回って耐えがたいので、妻に救急車を呼んで貰った。(後で、「尿管結石」経験者に何人かあったが、そのほとんど全てが救急車を呼んでいた)救急車が来るのがひどく待ち遠しく長かった。救急車に乗り込んでも苦しくて、何が原因でこんな痛みがあるのだろうか大きな不安が襲ってきた。(その時は「尿管結石」のことは全く知らなかった。)このままどうなるのだろうかひどい不安であった。総合病院に行って救急で見てもらって検査して貰って、内科の医師から「尿管結石」だろうと言うことと、「尿管結石」のことが説明されて、とりあえず原因が分かったことにホッとしたが、痛みは相変わらずなので、痛み止めの注射を打って貰った。それで転げ回るような痛みは少しおさまった。その時もそのまま入院することになり、痛み止めの内服薬も貰って飲んだが、夜は苦しくてあまり眠れなかった。翌日泌尿器科で検査を受けて、一端退院して、石を破砕してくれる病院に行くことになった。この総合病院では新宿の専門病院を勧められたが、妻がもっと近くの船橋の医療センター前の専門病院を探してきてくれた。翌日そこに行った。するとその病院で検査と診察したところ、すでに石(結石)は体外に出てしまっていると言われた。石は時々尿とともに体外に排出されてしまうことがあるらしい。私の場合も恐らくそれだと言われた。おかげで手術等をする事なく、ことなきを得たが、二度とあの痛みはごめんだと強く強く思った。 35 40 45

というわけで「胆管結石」と「尿管結石」のどちらが痛いと言われれば、どちらも経験した私の場合は、どちらもひどく痛い、「尿管結石」の方が耐えがたく救急車を呼びたいほど痛いと言える。 50

【看護師さんたち】

5階では外科(S病棟=南側)と内科(E病棟=東側)の2つの病棟があった。

病棟の看護師の長は「病棟看護師長」が1名、師長の補佐に「係長」が2名、その他に一般の看護師が大勢、その下に「准看護師」数名。 55

看護師の勤務は3交代制の看護師と2交代制の看護師がいて、ローテーションするようだ。やはり「夜勤」はつらい。その他に土日勤務の看護師がいるらしい。

どの看護師さんも優しくて朗らかで面倒見が良くてありがたかった。患者からの質問にも丁寧に答えてくれた。私が胆嚢摘出後のことを心配していると、自分の知人のことを丁寧に教えてくれた看護

☆翌日(30日)には病室移動し、5日まで過ごす

一晩、スタッフステーション前の二人部屋で過ごして朝を迎えると、早速4人部屋に移動ということになった。今度は男性だけの部屋だった。4人部屋は一応男性部屋と女性部屋という風に別れているようだ。個室というのがあるのだが、個室は差額料金で1日7560円、6S病棟は1万2960円と非常に高い。ちなみに4人部屋は1日1620円。

4人部屋はいろんな人が入っていて、結構おもしろい。同室の全員と挨拶はしたのだが、そのうちの一人、Nさんとはよく話をした。

同室のNさんは、70代の男性で独身で家族が全くいないために、すべてのことを自分一人でやっていた。農家の人で、自分がいない間の田畑のことを心配していた。この人は「糖尿病」がひどくてこれから週3回の透析になるとのこと。今は障害者3級だがこれで障害者1級になるらしい。透析生活のことや今後の年金のことなど将来の不安を語っていた。看護師がNさんに、担当医師の話ではこれからはバイクには乗ってはいけないと言うと、激高し、「それは困る、自分には他に足がない。生活ができなくなる。医師を呼んでほしい」と訴えて、医師が病室に来た。医師が事情が分かりましたので、バイクに乗ってもいいですよ。ただ危ないので十分に気をつけてくださいと言ったので、すごくホッとしていた。

手術の当日と翌日は食事は禁止だった。翌日の夕食から食事がOKとなり、最初は3分粥だった。3分粥というのは初めて食べたが、ほとんど液体のご飯にわずかに何粒か柔らかい米粒が見える程度のお粥。他のおかずも葛湯(くずゆ)のような流動食が全て。入院3目の朝食は5分粥で、昼食が7分粥で、夕食が全粥。入院4日目の朝食から普通のご飯になった。

今回は、胃カメラで胆管の結石を取り出しただけなので、術後の痛みも特になく、比較的元気であった。

ただ、この後で胆嚢を摘出することがあり得るので、何人かの看護師さんに胆嚢を摘出するとどうなるのかを尋ねてみた。一人は、おじさんが何年前に胆嚢を摘出したが、その後の生活は以前と何の変化も無く普通に暮らし、食べ物も何も変わらない生活をしていると教えてくれた。もう一人の看護師さんの話もほぼ同様だった。



5階の病室から見える北アルプスの眺めは素晴らしい!

☆退院の日12月5日に、今後のことについて

【栄養士による栄養指導】

退院の日は妻が迎えに来てくれて、妻と一緒に10:00に栄養士さんから今後の栄養指導を受けた。食事療法のポイントは①脂肪の多い食品は控えましょう ②規則正しい食生活をしましょう(バランスのとれた食事を一定の時間にとることが胆汁の分泌に良い) ③アルコール類・カフェイン・炭酸飲料・香辛料は控えましょう(刺激物は胃酸分泌を促し、胆汁にも影響します。コーヒーは1日一杯程度) ④コレステロールの多い食品は頻度を控えましょう(コレステロールは結石の原因になります) ⑤野菜・食物繊維を積極的に取りましょう(食物繊維は血中コレステロールを低下させます)

妻にとっては全て知っていることばかりで、日頃私に言っていることばかりだから、次回はあなた一人で聞いてとのことだった。

【外科の指導(今後のことについて)】

今後のことについて、妻と一緒に外科のT先生の説明を聞いた。T先生の話では、まだ胆嚢に石が残っているのでいずれは石が胆管に出て激痛が来ることがある。「胆嚢」という器官は、肝臓で作られた胆汁を一端ためておいて、胃で砕かれて細かくなって十二指腸に来た食物の脂肪分を細かくするために、その

都度縮んで胆汁を吐き出す働きがある袋状の器官。「胆汁」には脂肪分を細かくして吸収しやすくする働きがある。しかし、熊のような動物と違って人間には「胆嚢」が無くてもほとんど問題はない。胆嚢がないと胆汁はためておく場所がないので、始終だらだらと流れる状態になるから、十二指腸に一度に脂肪分が多い食べ物が来ると細かくしきれずに、脂肪分が吸収されなくて便に混じって下痢状態になるだけのこと。

5

それで、どうしますかとのこと。私は、それならできるだけ早く切っていただきたいとお願いした。そこでT医師はスケジュールを確認し、「来週水曜12日に前日入院して、13日に胆嚢摘出手術をしましょう」ということになった。

☆帰りに、市役所で高額医療の補助金について、手続き

10

病院を出て帰りに、高額医療の補助金の手続きのために市役所に立ち寄った。そこで高額医療の補助金の説明を受けて、申し込みの手続きをした。説明では、11月分は既に病院で支払ったので、高額医療分の補助金が後日戻ってくる。12月分はこれから支払うので、事前に申請して市役所からの書類を病院に提出すれば、5万7600円を限度に一部の食事代などを除いて支払う必要がなくなるとのこと。これは助かる制度だ。

15

このほかに民間の生命保険に加入していて、入院等に保障があればその分もできるので、それもありがたい。

20

[2] 2018年12月6日(木)~12月11日(火)の在宅生活

☆退院以後は基本的に次の手術&再入院に向けて用心して生活

12月5日(水)に退院したのだが、また来週水曜12日に前日入院して、13日に胆嚢摘出手術をすることが決まったので、12月6日(木)から11日(火)までの在宅生活は、何としても予定通りに手術を受けられるように、風邪など引かぬよう、体調不良にならぬよう、極めて用心して生活を送ることになった。そのため、もちろんトレーニングジムに行くことや人の集まるところに行くことは禁止で、食事の面は妻が細心の注意をしてくれた。あまり体力を落とさないように1回10分の散歩を1日2回はやった。もちろんアルコールは禁止。そうやって約1週間をすごした。

25

30

☆12月10日(月)にC総合病院へ

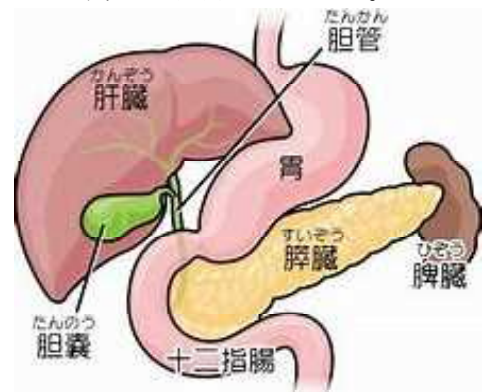
【外科のT医師の説明】

1:30から、妻と2人で外科のT医師の説明を聞いた。T医師は1時間近く説明してくれた。

(1)肝臓と胆汁と胆管と胆嚢などの構造や機能の説明

「肝臓」は色々な働きをするが、「胆汁」をつくる働きもある。

「胆汁」という液体は胃で細かくされた食物の脂肪分をさらに細かくして吸収しやすくする働きがある。「胆汁」は「肝臓」で作られて「胆管」に流れ出る。「胆嚢」という器官は、肝臓で作られた胆汁を一端ためておいて、胃で砕かれて細かくなって十二指腸に来た食物の脂肪分を細かくするために、その都度縮んで胆汁を吐き出す働きがある袋状の器官。今回は「胆嚢」を摘出手術を実施する。「胆嚢」はなくなっても特に問題は起こらない。



35

40

(2)胆嚢摘出手術のやりかたの説明

今回は「開腹手術」ではなく「腹腔鏡下手術」を実施する。

まず「へそ」からカメラ(腹腔鏡という内視鏡)を入れてそれで腹部をモニターで見ながら手術をする。お腹の右側に各1cm弱ずつ3カ所切り、そこから鉗子を入れて、それで作業をする。胆嚢と胆管を結ぶ管を切除し、胆嚢を摘出する。胆嚢と胆管を結ぶ管は切除後にクリップで止めて止血する。

全身麻酔をかけるので、患者本人は痛みを感じないし、眠っている間に手術は終わる。

手術時間は、通常1時間半程度。

手術中、何か問題があり時間がかかることがあるが、「開腹手術」に切り替えることはほぼない。というのは胆嚢の位置は肋骨の陰にあり、開腹しても見えやすくなるということがないため。

今回の「胆嚢摘出」時には、前回胆管に挿入したストロー状のステントの除去は行わない。ステントは結石が胆管を刺激するのを防御するため、今回の手術で万一胆管に結石が残ることが懸念されるためであり、後日、今回の入院中に消化器内科

45

50

55



でステントを取り除く。

(3) 胆嚢摘出手術の各種リスクについての説明

- ①急性膵炎 (3.5%)
- ②急性胆管炎など感染症 (1.4%)
- ③出血すること (1.3%) →止血がうまくいかない時は手術中に輸血になる場合もあるが、輸血には感染症などのリスクがある。
- ④消化管や胆管に穴があくこと (0.6%)
- ⑤薬剤によるショックや呼吸循環不全 (1.3%)
- ⑥誤嚥

(4) 手術から退院までの日程見通しの説明

12月12日(水)に前日入院。13日(木)に胆嚢摘出手術実施。17日(月)ころにステント除去。来週末に退院の予定。

【次回の再入院について打ち合わせ】

その後、再入院について、栄養士・薬剤師・看護師との打ち合わせがあった。看護師から絶対風邪など引かぬようにとの話があった。

《第2部》 2回目の入院 (胆嚢摘出)

[1] 2018年12月12日(水)~12月22日(土)の入院

12月12日(水) 手術前日入院

☆入院手続き後、病室へ

再入院の朝、妻の運転する車で、C総合病院に行った。まず総合受付で、会計係のKさんに会って説明を受けた。それからB受付で、「入院申込書(自宅で記入済み)」を提出。そこへS病棟(外科)の病棟師長が迎えに来てくれて、5階のS病棟の病室(4人部屋)に入室。そこで看護師に入院グッズの申込書を渡し、持参の品々を机の引き出しにしまった。

☆麻酔医の問診

3階手術室の隣の小部屋で麻酔医の問診と説明があった。初めに私の現在の状況について、いくつかの問診があった。麻酔は全身麻酔をかけるとのこと。酸素マスクをあてて、点滴ラインから麻酔薬を入れる。患者は手術中は眠っているとのこと。手術開始は、1:30の予定だが、午前中にも手術があつて、その関係で前後30分程度はずれることもありうるとのことであった。明日はよろしくお願ひしますと挨拶した。

その後妻は帰った。本当にありがとうございました。

☆手術室看護師の説明

病室に手術室看護師さんがやってきて、写真入りの資料をもとに、手術室入室から、全身麻酔を行い、手術を受け、手術終了から帰室までを詳しく丁寧に説明してくれた。明日はよろしくお願ひしますと挨拶した。

12月13日(木) 入院2日目、胆嚢摘出手術

☆手術日の朝

食事は、前日朝から止まっており、この日も食事なし。前日に下剤を2回飲んでおり、この日の朝は浣腸をされたが特に出る物なし。前夜の9:00からは水分摂取も禁止で、咽もカラカラ。後は昼まで特にすることがないので、売店で新聞を買ってきて読む。もちろん昼食も出ない。

妻が12:30ころに病室に来てくれた。手術は1:30から予定通りとのことで、1:00頃まで時間を潰しに行った。

☆いよいよ手術(胆嚢摘出手術)

1:00頃、病棟看護師さんが病室に来て、私は血栓防止用のストッキングをはかされた。手術中は脚が動かさないで、エコノミークラス症候群になるのを防止するためだそうだ。

その後、妻が戻って来た。いよいよ手術室へ移動ということでストレッチャーに生まれて初めて寝かされて、3階手術室へ荷物用エレベーターで移動。よくドラマで見るシーンだ。手術室入り口に家族待合室があって妻はここで待つことになる。手術終了を知らせるためのポケベルを持たされていた。

ちょっと待ってから恐らく手術予定の1:30ころ手術室に入った。そこで本人確認のために氏名・生年月日・手術部位を言わされた。ストレッチャーから手術用ベッドへ移動。仰向けに寝て見上げると目の前によくドラマで見るライトが一杯の光景があった。その後、血圧計・心電図のシール・酸素モニターが身体につけられた。酸素マスクが当てられた。点滴から麻酔薬が入れられたらすぐに眠りについてしまった。その後のことは一切覚えていない。執刀医の外科医のT先生が来たことも知らない。

【私が眠っている間に 胆嚢摘出手術】

実際には私は眠っていたので手術がどのくらいかかってどのようになされたかは一切分からなかったが、先日の外科のT医師の話では以下の通りであった。

今回は「開腹手術」ではなく「腹腔鏡下手術」を実施する。まず「へそ」からカメラ（腹腔鏡という内視鏡）を入れてそれで腹部をモニターで見ながら手術をする。お腹の右側に各1cm弱ずつ3カ所切り、そこから鉗子を入れて、それで作業をする。胆嚢と胆管を結ぶ管を切除し、胆嚢を摘出する。胆嚢と胆管を結ぶ管は切除後にクリップで止めて止血する。

後で分かったのは、実際の私の手術は大変難航して時間がえらくかかったようだ。



☆手術の直後

しばらくして、麻酔が覚めて気がついた。(後での妻の話では手術後1時間ほど過ぎた時のようだ)(麻酔の効き目は大したものだ。手術で切られても全く痛みを感じずに眠り続けたし、しかも手術が済むまでそれがもって、しかも手術が済めば意識が回復するのだから、麻酔医というのはたいしたものだ。)そこはすでに手術室ではなくて病室のベッドだった。そのまえにT医師から「癒着がひどかった。ずいぶん長いこと頑張っていましたね」と声をかけられたようだが、その時は意味が分からなかった。どこで声をかけられたかも分からなかった(後で妻が教えてくれたのでは、執刀医のT医師は病室まで来てくれたようで、病室で言われたようだ)。私が寝かされていたのは、後で分かったのだが、5階S病棟のスタッフステーション前の2人部屋。2人部屋は手術直後の患者が入る指定部屋であるらしい。そこには妻がいてくれた。現在の時刻と、手術が4時間半もかかったことを教えてくれた。私の内臓脂肪が邪魔で胆嚢がなかなか見つからなかったのと、胆嚢の癒着がひどくてそれを一つずつ丁寧に剥がすのにとても時間がかかったそう。胆嚢はすごく小さくなっていてもはやほとんど機能していなかったらしい。結石は5mm程度が4つほどあったのを見せて貰ったと言っていた。(妻はこの時それ以外のことも言ったようだが、私はそれ以外は記憶にない。結局ポーっとしていたのだろう。)通常は1時間半程度なのにその3倍もの時間の手術をやってくれたT医師には本当に感謝である。それに麻酔医・担当看護師・研修医の皆さんにも感謝感謝である。それにその時間ひたすら手術の終わるのを待ってくれた妻にも感謝感謝。後で分かったことだが、妻は、手術直後で私が見つかるまでの1時間程度の中に、T医師に手術の様子をVTRを見せられて説明をうけたらしい。大変でした。妻は大変腰が痛いと言っていた。4時間半も座らせてしまっても心配かけて本当に申し訳ない。大変遅くなって申し訳なかったが、妻にお礼を言って帰って貰った。本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

私の身体にはいろんな管や器具などが付けられていた。点滴の管や尿への管や酸素マスクや血栓ができるのを防ぐための器具(8秒おきくらいに強く収縮するもので、両足の土踏まず付近を挟むように装着されていた)、胸に心電図シールなどが、つけられていた。お腹から激痛が走っていた。すぐに痛み止めの注射をしてくれたが、その後1時間ぐらひは激痛がいつこうに止まらなくてうんうんうなっていた。

激痛は2時間ぐらひ経過した頃から、少しおさまってきた。しかし、血栓ができるのを防ぐための器具が8秒おきくらいに強く収縮するので、夜中じゅう全く眠ることはできなかった。

痛みは3・4時間経つと腹部の奥に感じる程度でかなりおさまってきた。1:00ころからそれまで9~10時間仰向けの姿勢だったので、看護師さんに寝返りを打たせて貰った。寝返りを打つのはお腹が痛かった。その時の夜勤のH看護師は、1~2時間おきに、私と同室の患者と2人の血圧・体温・お腹の様子を検査してくれた。手術直後の我々2人の容体の急変に備えるためであろう。ありがたいことだ。血圧計はそれ以外にも定期的に自動で入るようで突然腕が締め付けられるので驚いて心臓に悪い。

12月14日(金) 入院3日目(手術翌日)

朝5:30ころようやく血栓防止器具を外して貰ったので、そこから一眠りすることができた。 5

7:00頃に、尿用の管や心電図シールや酸素マスクが外されて少しホッとした。それから、手術着を普通のパジャマに着替えさせて貰って、病室を移動した。今度は男性だけの4人部屋だった。

もちろん、まだ食事は出ないが、水はOKになった。

☆Y研修医からの前日の手術の話では、胆管結石の痛みはだいぶ前からではないか

 10

8:30ころY研修医さんが病室に来てくれて、昨日の手術のことを話してくれた。手術が大変長時間になったのは、胆嚢の周りへの癒着が思いの外ひどかったからだそうだ。肝臓や腹部の膜(腹膜のことか?)への癒着がひどくて、腹腔鏡のモニターで見ながら、それらを傷つけないように丁寧に剥がすのがとても大変だったとのこと。これだけ癒着がひどかったのだから、結石の痛みは今回だけでなく今までに何回もあったのだろう。1年やそこいらではないかもしれないということだった。 15

ということは、昨年6月のタイ旅行直前の腹部激痛から2年がかりで8回も繰り返した腹部の痛みは全て「胆管結石」による痛みだったのかもしれない。ひどいものだ。もっと早く「胆管結石」に気づいていればこんなにひどい目に遭わずに済んだのだろうという思いと、今回もし妻がBクリニックに行くようにアドバイスしてくれなければ、もっと炎症が悪化してさらに大変なことになっていたかもしれない。今回ももしいつものようにAクリニックに行っていたら、相変わらず胃が悪いということになり、今回はおさまってもいずれまた次の腹痛が起り、胆嚢の癒着はさらにひどくなり、手術は今回よりもっと大変なことになっていたかもしれないし肝臓にも悪影響を与えてもっとひどいことになっていたかもしれない。本当に妻には感謝しても感謝しきれない。 20

☆その後の体調不安(腹部の張り)

 25

水分をとってもいいというので事前に購入していたペットボトルのお茶をガボガボ飲んだ。500ml飲んでも小便がでなかった。お腹の張りがどんどんひどくなって、パンパンになってきた。なるべく歩くといいというので、病棟を何回も何回も歩いた。1回5~10分ずつ5回歩いたが、いっこうに良くなかった。腸のガスが出るというのだが、出なかった。お茶もさらにもう1本ペットボトル500mlを飲んだがそれでも小便もでなかった。この状態はいつ改善するのか不安が生じた。医師に相談したららしい看護師さんから当面の水分摂取禁止が言い渡された。それから下剤を飲まされたが30分経っても1時間経っても何も出なかった。そこで腸のCTスキャンを撮ることになった。 30

その後しばらくして、T医師からCTスキャンの結果、腸に特に異常はないので大丈夫だろう。ということでも再び水分を摂ってもいいことと、明日の朝食から予定通り食事が出ることが言われた。少しホッとした。 35

それからしばらくしてようやく小便は出た。少しホッとした。

腹部の張りや切った箇所痛みは夜中じゅう続いた。点滴もつなげたままで夜中じゅう続いた。お腹の奥の傷(胆嚢を切った場所)が痛くて寝返りは簡単に打てなくて、ずっと左側だけで腹部を下にしたり背中左側を下にしたりして少しだけ寝返りを打つようにした。そんな状態で夜中はほとんど眠れなかったが、明け方少しだけ眠ったようだ。 40

12月15日(土) 入院4日目(手術翌々日)

☆昼からやっと腹部の張りが改善したが、腹部の奥は痛い

 45

朝一番の検診で目が覚めた。測定結果は、血圧H116、熱37.0、血糖値93。

7:30に朝食。この日の朝からついに食事が出た。[朝食の献立] 1回目の献立は、五分がゆ(トロリとしたお粥に柔らかめの米粒がかなり見える)、味噌汁(白菜、刻み凍み豆腐)、厚焼き卵、茄子のコンソメ煮(茄子がトロリと柔らかい)、しらす卸し大根、牛乳100ml温、エネルギー278kcal、タンパク質15.6g、塩分2.1g。3日間絶食だったので、とにかく食べられたことが嬉しい。食べられるということはこんなに嬉しいことなのだ。 50

9:30頃、お腹のレントゲン検査。

10:00頃に外科医の回診。

10:30頃にY研修医が病室に。Y研修医は毎日来てくれて少し詳しく話してくれるのでありがたい。レントゲン検査の結果は、お腹が張っていても腸が動いているので大丈夫。そのうち張りがとれるだろうとのこと。とにかく歩いた方がいいとまた言われた。朝から何回か歩いていたが、そこで早速また10分程度病棟を歩いた。 55

12:00に昼食。[昼食の献立] 七分粥(五分粥より米粒多い)、野菜スープ、魚の照り煮、実無し

茶碗蒸し、チンゲンサイとタマネギのごま和え、ミカン缶詰。305kcal、蛋白質18.4g、塩分2.4g。実(具)の入っていない茶碗蒸しは初めて食べた。

昼食後、トイレに行きついでにガスが出た。おかげで夕方には少しお腹の張りが減った。少しホッとした。

6:00に夕食。【夕食の献立】全粥、豆腐スープ、魚の照り煮、甘芋含め煮、カリフラワーと人参のピクルス、黄桃の缶詰。492kcal、蛋白質20.4g、塩分1.4g。必ずカロリーと塩分の標示があるのは取り過ぎないように注意しているぞということだろうし、蛋白質のgがあるのは逆に摂る注意してるぞということだろう。味は当然薄味。脂肪分はほとんど無いだろう。病院食は、患者別にその病気や症状に合わせて作られているようだから、私の今にぴったりの献立なのだろう。

夜は、9:00に就寝タイムで、看護師さんが病室の灯りを消して回る。寝なければならないので、ベッドに横になろうとするとお腹が痛い。胆嚢を切除した箇所だろう、腹部の奥が筋肉痛のように痛いので、ベッドの柵を持って気を付けて横になる。右向きは切除部なので圧迫されて痛むので、左側を向く。仰向けも痛いので、左側しか向けない。寝返りも必要なので、左側を向いたまま、左横を向いたりちょっと左の背中をつけたりで寝返りをするのがベストのようだ。常に気を張っているのも自然と眠りは浅くなる。

15

12月16日(日) 入院5日目(手術3日後)

☆腹部の張りがなくなったが、腹部の奥は依然として痛い

明け方は眠り込んだようで、6:30に看護師さんが体温と血圧を測りに来て目が覚めた。

20

7:30朝食。【朝食の献立】米飯(ついに粥でない普通の米の飯が出た)、絹さやと油揚げの味噌汁、卵とじ煮、カリフラワーのコンソメ煮、白菜と胡瓜の生姜醤油和え、牛乳100ml温。489kcal、蛋白質21.1g、塩分2.7g。普通の米のご飯だが、「易消化並食」のタイトルがついている。幾分今までよりも塩気を感じる。

10:00ころ、ついに便通あり。軟便だが、出たことが嬉しい。やっと腹部の張りから解放された。回診に来た医師からシャワーを許可された。

25

11:00ころ待望のシャワーを浴びた。ここはシャワールームが二つあるのがありがたい。1室はシャワーだけだが、もう1室は浴槽付き。シャワー室前のボードに予め自分の名前を記入して部屋を予約しておく。先ほど部屋を取りに来たら、11:00からが空いていたのでラッキーだった。5日ぶりにシャワーを浴びてスッキリした。シャワーってこんなに気持ちのいいものなんだ。売店で購入したハンドクリームを手につけた。病院は全館暖房が入っているが、そのため大変乾燥しているのも手もカサカサだった。

30

12:00に昼食。【昼食の献立】米飯、豆腐エビあんかけ、鶏肉煮物、ポテトサラダ、パインの缶詰。ポテトサラダが旨い。それにしても果物はなぜか全て缶詰だ。皮とか種とか余計な物がでないからだろうか？

病院のベッドは、低反発の素材に、ブツブツの出っ張りがある無圧ベッドだ。

35

看護師さんが来て、明日の10:00から栄養士の栄養指導があるが、奥さんに来てもらえますかと言われたので、私一人で聞くのでいいと応えたらそれでOKだった。

6:00に夕食。【夕食の献立】「易消化並食」米飯、大根と三つ葉の味噌汁、柔らかすき焼き、もやしの花鰹和え、ブドウの缶詰。果物はまた缶詰だ。すき焼きもどきが嬉しかった。

この日も9:00に消灯。

40

12月17日(月) 入院6日目(手術4日後)

【朝食の献立】「易消化並食」米飯、麩入り味噌汁、プレーンオムレツ、玉菜と人参のコンソメ煮、インゲンのごま和え、牛乳100ml温。459kcal、蛋白質17.0g、塩分2.3g。

45

8:30ころ便あり。お腹の具合がいいのは嬉しい。

【手術4日後に、退院について思うこと】

腹腔鏡下手術の場合、手術後4日程度で退院するらしいが、私の場合は、この後「ステント取り出し手術」が必要なので、退院はずっと遅くなる。でも、仮に手術後4日で退院できたら、まだお腹はかなり痛くて、速くは歩けないし、まともに運動はできないし、食事や体調管理もあるので、むしろこのまま何日か入院できている方がありがたい。

50

【ステント取り出し手術について】

入院前の医師の話では、本日月曜日頃ということであったが、結局は明日火曜日になった。事前にリスクに関する書類を渡されて、そこに患者氏名を記入して「手術申込書」の提出となった。もっとも病院では「ステント取り出し手術」というよりは「内視鏡的逆行性膵胆管造影検査(ERCP)」というようだ。

55

【10:00頃、栄養士による栄養指導】

栄養士さんから食堂談話室で今後の栄養指導を受けた。今回は妻と一緒になく申し出て一人で受けた。

食事療法のポイントは前回とほぼ同様であった。つまり①脂肪の多い食品は控えましょう（乳製品は1日1～2回）②規則正しい食生活をしましょう（バランスのとれた食事を一定の時間にとることが胆汁の分泌に良い）③アルコール類・カフェイン・炭酸飲料・香辛料は控えましょう（刺激物は胃酸分泌を促し、胆汁にも影響します。コーヒーは1日一杯程度）④コレステロールの多い食品は頻度を控えましょう（コレステロールは結石の原因になります）⑤野菜・食物繊維を積極的に取りましょう（食物繊維は血中コレステロールを低下させます）⑥塩分は少なめにしましょう（外食は丼物より定食がいい。麺類のスープや味噌汁は残す）その他に、前回より2つ付け加わった。⑦蛋白質は積極的に摂りましょう。⑧退院後すぐは、柔らかめの食事にし、蛋白質は必ず1品以上摂り、野菜は加熱したもの、果物は缶詰めでなく生でもOK。

もっと強調されたのは、手術後2～3週間は食事制限を厳しめにして、それが過ぎたら緩くしてよく、暴飲暴食をせず適度に食事をすれば良いとのことであった。アルコールも3週間は過ぎたら1日焼酎水割り2杯程度までで、週2日程度の休肝日を設けることが望ましいとのことであった。

【昼食の献立】「易消化並食」米飯、肉団子スープ、マッシュポテト（これがうまかった）、すりりんご。

【夕食の献立】「易消化並食」米飯、そうめん汁、蒸し鶏卸しソース、奴豆腐、白菜おひたし、白桃缶詰。468kcal、蛋白質28.1g、塩分3.0g。

この日も9：00に消灯。夜中に3度ほど目が覚めたが、後はよく眠れた。

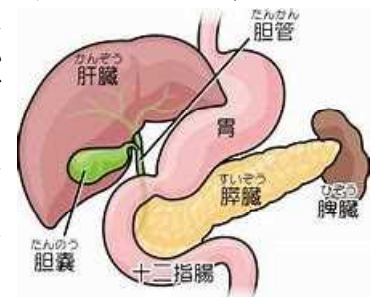
12月18日(火) 入院7日目、ステント取出し手術

☆午前中に「ステント取り出し手術」＝「内視鏡的逆行性膵胆管造影検査(ERCP)」

この日の午前中に手術があるので、朝食はストップだった。自分がこの病院に持ち込んだ常用の朝食後の薬も飲まないようにとの指示であった。

10：30から「ステント取り出し手術」ということで、病室で血栓防止用ストッキングをはかされ、点滴を再開したまま、手術室というより検査室に移動した。胃カメラの検査室は、前回の胆管結石を掻き出す手術（検査）の時にも使った部屋だった。咽に麻酔液を飲まされ、口にマウスピースをして、それからうつ伏せになった所で、今回も私は眠り薬で気を失ってしまった。その後マウスピースから胃カメラが挿入されて十二指腸に達した後、胆管に通されて胆管内のステントを挟み込み、それを取り出して口から出したようだが、私は何も感じていないし分かっていない。時間は約20分程度だったらしい。胆嚢摘出手術に比べれば至極短い時間だ。

その後、担当のS消化器内科医師から説明を受けた。ステント取り出しは無事に終了したこと。私の胆管にはもう何の石も残っていないこと。この日の昼食と夕食と明日の朝食はストップで明日の昼からは食事が出ること。水分はこのあとからOKであること。ということが説明された。



S消化器内科医師の説明通り、このあとの昼食と夕食はストップで食事ができないのはなんとも残念で物足りない。

12月19日(水) 入院8日目

朝6：00頃に夜勤の看護師さんが回ってきて起こされた。いつものように検温と血圧測定をしたほかに、この日は採血もした。この採血の結果次第で、この日の昼から食事が出るかどうかと退院がいつになるかが決まるとのことだった。

9：00頃、外科のN医師の回診で、先ほどの血液検査の結果は良好だったので、予定通り昼から食事が出ると言われた。退院がいつになるかはT医師の判断とのこと。

10：00頃、Y研修医が来てくれて、退院の日取りは本日の昼食を食べてみて問題が無いかどうかで決まるとのことだった。

【昼食の献立】久しぶりの食事なのにお粥ではなくていきなり普通の米の飯だった。「易消化並食」米飯、豆腐の野菜スープ、肉じゃが、白菜花鰻和え、ミカン缶詰。

食事後に点滴がとれた。点滴がないと気分的にスッキリする。点滴は結構ストレスになる。

【夕食の献立】「易消化並食」米飯、ミルクスープ、蒸しハンバーグ（こうやって脂分を落とすようだ）、人参サラダ、黄桃缶詰。

夜9：00消灯。点滴はないし、お腹の奥の痛みも和らいできて、夜中は2度ほど目覚めた以外は、よく眠れた。

12月20日(木) 入院9日目

朝6:50頃、看護師が体温の測定に来た。血圧はなぜか測らなかった。

【朝食の献立】「易消化並食」米飯、長ネギの味噌汁、厚焼き卵、皮むき茄子のコンソメ煮、卸し大根、牛乳100ml温。 5

【退院日】退院日について、医師からは金曜日と土曜日のどちらでもいいと言われたので、ラインで妻と相談して土曜日ということをお願いした。

【シャワー】再びシャワーがOKになったので、早速11:00にシャワー室を取った。おかげで気分爽快！こういうことがすごくありがたい。 10

【昼食の献立】「易消化並食」米飯、野菜スープ、金目鯛と豆腐のスープ煮、小松菜のごま酢和え、バナナのソフトエット（このデザートがおいしい）

【夕食の献立】「易消化並食」米飯、そうめん入りの野菜スープ、蒸しカレー(ものすごく柔らかい)、里芋と人参の含め煮、玉菜の酢醤油和え、黄桃缶詰。 15

12月21日(金) 入院10日目

朝6:40に看護師が回ってきて測定で目が覚める。

【朝食の献立】「易消化並食」米飯、大根と油揚げの味噌汁、車麩の卵とじ、ひきわり納豆、ほうれん草のごま和え、牛乳100ml温。牛乳100ml温は朝食の定番のようだ。 20

【Y研修医の回診】Y研修医がこうして毎朝来てくれるのは情報が入ってなにかとありがたいことだ。この時は、退院後1月7日(月曜日)に外科のT医師の診察が入っているのので、受診するようにとのことを伝えてくれた。

【Uさん戻る】1週間ほど前に退院した同室のUさんが、なんと戻って来た。しかも前と全く同じベッドに。病院に戻る人は時々いるようだが、同じベッドというのは珍しいと思う。Uさんがいない間に3人ほど別の人が入ったが、この日はたまたまそこが空いていてUさんが同じベッドに戻って来た。Uさんは退院した後は、外来を受けることになっていたはずで家に帰れることをすごく喜んでいたので、「また戻って来てしまった。」と残念そうに言っていた。 25

【昼食の献立】「易消化並食」米飯、赤板と三つ葉のすまし汁、魚の照り煮（これは何回か出た）、カブのそぼろあんかけ、人参と白菜の甘酢和え、パイナップル缶詰。 30

【シャワー】シャワーはシャワー室が空いていればいつでも入れる。この時は4:00に入った。やはり気分爽快！

【夕食の献立】「易消化並食」米飯、茶碗蒸し、魚の味噌とマヨネーズ焼き、青菜と人参の花鰹和え、ブドウ缶詰。この日の夕食は5:00頃といつもより1時間早かったので、なぜこんなに早いのかと看護師さんに訊いてみたら、今日はこのあとクリスマス会があるのでとのことだった。 35

【クリスマス・コーラス】6:30頃からスタッフステーション前で、看護師さんたちによるクリスマスソングのコーラスがあった。これは看護師自治会の主催で毎年恒例になっているらしい。12月21日なのは今年が22日(土)・23日(日)・24日(月が祝日)のためようだ。歌ったのは、「清しこの夜」「もろびとこぞりて」「ジングルベル」の3曲。とても綺麗な歌声だった。ちゃんとパートに別れているのはかなり事前練習したのだろう。仕事で忙しい中で大変だったろう。指揮者は看護師長さん。看護師長にはこんな才能もあるのか。病院でこんな歌が聴けるとは思わなかった。とてもいいイベントでありたい。



【私の病院での暇な時間の過ごし方】

病院では、検査や手術など医療関係の時間や食事やシャワーなど生活関係の時間以外は、非常に時間がある。特に医師の回診や検査関係は午前中なので、午後はほとんど暇である。暇な時間の過ごし方は患者によっていろいろであり、中にはひたすら寝て過ごす人もいる。 55

私は、基本、1日3回の食事時は病室備え付けの自分用のテレビを見ていた。テレビは有料で院内

に何か所かあるテレビカード購入器で1枚1000円のテレビカードを購入してテレビに差し込むとテレビが何時間か見られるようになっている。私はニュースや朝ドラなどは欠かさず見た。

朝のテレビ視聴が終わると売店に行って、新聞を購入して毎朝1～2時間ぐらいかけて丁寧に読むのを日課にした。妻が時々新聞を差し入れてくれることもあった。

暇な時間の過ごし方で、圧倒的なのは読書。読んだのは小説を中心に好きな歴史書などいろいろだが、前半後半計18日間の入院期間中に20冊の本を読了した。こんなにたくさんの本が読めるのも入院生活ならではの。

5

12月22日(土) 2回目の入院は11日目でやっと退院

10

退院の日は朝7:00ころに看護師の体温測定があった。36.2℃で順調。

【最後の朝食の献立】「易消化並食」米飯、豆腐と長ネギの味噌汁、厚焼き卵、はんぺんのみぞれ煮、おひたし、牛乳100ml温。

看護師さんがやって来て、薬の返却があった。入院前に普段飲んでた薬を病院の薬剤師さんに預けた物の残りを返却された。

15

10:00退院ということで、9:00ころに荷物を片付け、普段着に着替えた。

10:00少し前に妻が迎えに来てくれた。同じ病室の人やスタッフステーションの看護師さんに退院の挨拶をして1階に降りた。本来なら退院前に入院費用等を支払うのだが、この日は土曜日で会計が休みなので、支払いは年明けの1月7日の診察の日にして、そのまま病院を出た。

20

そして妻の車で帰宅した。

【私の入院期間は11日】

入院期間については、「胆嚢摘出手術」だけで、それも開腹手術でなくて腹腔鏡下手術なら、通常は4・5日といったところだろうが、私の場合は「胆管のステント取り出し」もあったので、11日と長くなってしまった。それでも前にも記述したとおり、通常の4・5日で退院した場合は、その後まだ腹部の奥の胆嚢を摘出したところが痛んで普通の活動はきついだらうと思うので、私の場合はかなり回復するまで病院で過ごせて良かったのかもしれない。

25

30

[2] 2018年12月22日～2019年1月7日の在宅生活

★12月22日の退院から1月6日までの在宅生活

退院の日から、1月7日の外科診察の日までは、妻が気遣ってくれて、できるだけ用心して回復に努めることになった。具体的には、手術の傷が心配なので重いものを持ちたりお腹に力を入れないこと。週1回のテニスなどの激しい運動は当然駄目だし、毎日のジム通いも止めておいた。かといって運動を全くしないのも問題なので、毎日、午前と午後に1回10～15分程度の散歩を続けることにした。週3回の夕食づくりも12月いっぱい妻がすべてやってくれた。それから「歴史の勉強会」や「歌声喫茶」などへの参加もこの期間は全て取りやめた。という訳で基本家において、出かけるのは散歩と昼の外食のみであった。おかげでこの間に順調に回復し、お腹の奥の痛みは全く無くなったし、元気にもなった。それで時間はたっぷりあったので、この「見聞録」を記述して過ごした。

35

40

【妻の知人の元外科看護師さんの話】

在宅生活の途中、妻が知人の元外科看護師という人から私のことで話を聞いてきてくれた。旦那さんの場合もう胆嚢が機能していなかったようなので、すでに胆嚢なしで生活していたようなものなので、手術で胆嚢摘出したからといって特に食事の面では気をつける必要も無いだろうという話を聞いてきてくれた。しかしこの後も念のために用心を続けることにしたし、依然としてアルコールも飲まなかった。

45

★1月7日(月)の外科T医師の診察を受けにC総合病院に

この日池田は久しぶりにC総合病院に行った。体調は頗るよかったが、内心はどんな診察があるか少しだけ心配でもあった。

50

【診察前に検査】

外科での診察の前に、血液検査のための採血を受けた。

【外科のT医師の診察】

それからしばらく待って、「胆嚢摘出手術」の執刀医のT医師の診察を受けた。まず入室して最初にT医師に、先日の長時間の「胆嚢摘出手術」のお礼を言った。T医師の説明では、先ほどの血液検査の結果は良好で何にも問題がないということと、摘出した「胆嚢」を病理検査に出したがその結果も癌などの問

55

題はなく良好であったということが告げられた。こ従って何も問題は無いので、これからは特に留意すべきことはなくて、普通に生活して良いこと、11月まで毎日のように通っていたフィットネス・ジムにも出てよいことなどが言われた。そして、これで医療は終了で、今後の定期的な検査などは必要ないことが言われた。良かった良かったと大変ホッとした。くれぐれもお礼を言って診察室を出た。

5

【会計の支払い】

そのあと、総合受付で12月の手術入院費(高額医療の補助金申請がしてあるので、その残り額)と本日の検査と診察の医療費の支払いをして、C総合病院を後にした。

10

今回の2回の手術と入院等の経験を振り返って

【今回私は意外に幸運だったのだ！】

15

今回池田は、長い間の腹部の激痛の原因が「胆管結石」だと分かり、すぐに結石を除去する手術を受けることができた。さらに、まだ石がたまっていていつそこから石が胆管に出て激痛を起こすか分からないような胆嚢(しかもその胆嚢は長い間の結石による痛みによる炎症を起こしすでに機能していなかった)を摘出手術を受けるて腹部の痛みから解放された。これらのことには、実は幾つもの幸運があったのだと思う。

20

その一は、なんとと言っても、妻が腹痛の原因は胆管結石ではないかと疑って、私に胃カメラがあるBクリニックを勧めてくれたこと。それが無ければ私はいつものAクリニックに行っていて未だに激痛に見舞われていたかもしれない。しかもこれ以上の長期の腹部激痛はそれだけ胆管や胆嚢や肝臓や膵臓にさらなる大きな負担を与え続けていたかもしれない。(妻が言うには、私は医師の言うことを鵜呑みにし過ぎるということ。一端思い込むと思ひ込みが激し過ぎるということが指摘された)

25

第二は、BクリニックのK医師が、ちゃんと胃カメラで痛みの原因が胃では無いことを突き止めてくれたこと。そして胆管結石を疑い、C総合病院に回してくれたこと。実はK医師は内科だけでなく消化器外科(まさに今回の専門分野)の医師でもあったこと、Bクリニックには人間ドック検査の器具が全てあって毎日早朝8:30から2名ずつ人間ドック検査をしているので胃カメラなどで正しく診断できる医師だったことが幸いした。

30

第三は、C総合病院の消化器内科のS医師が「胆管結石」と判断してすぐに結石を取り除く処置をしてくれたこと、及びその後の「胆嚢摘出手術」のことを考えてすぐに同病院の外科と連携をとってくれたこと。

第四は、C総合病院の外科のT医師が、「胆嚢摘出手術」を勧めてくれたことと、4時間半という長時間に渡る手術の技量と熱意を持っていたこと。この長時間手術には手術チーム全員に感謝しなくてはならない。

35

以上の第一から第四に関わった方々の誰か一人でも違っていたらこうはならなかったのだろうから、私はとても幸運だったと思う。そしてもちろんだが、これらの全ての方々に感謝感謝感謝である。

私は今まで69年の人生の中で、42歳の時の「尿管結石」の時に1泊の入院をしたことがあるのは先に述べた。しかしその時は石が自然に出てしまっ手術をしないで済んだ。だから手術を受けたのは今回が初めてだし、これほど長い入院も初めてであった。また、これほど長期にわたって痛みを苦しんだのも初めてであった。その意味で今回のことは私にとって初めて経験したことが多かった。今回の経験で最も強く思ったのは、家族や医療関係(医師だけでなく、今回お世話になった全ての看護師さんたち、医療スタッフ)や福祉関係の人など多くの人によって自分は助けられているのだということだった。その感謝の意味で、今回のこの貴重な経験をこうして『見聞録』に記述しておきたいと考えた。

40

45